

Takeda at a Glance

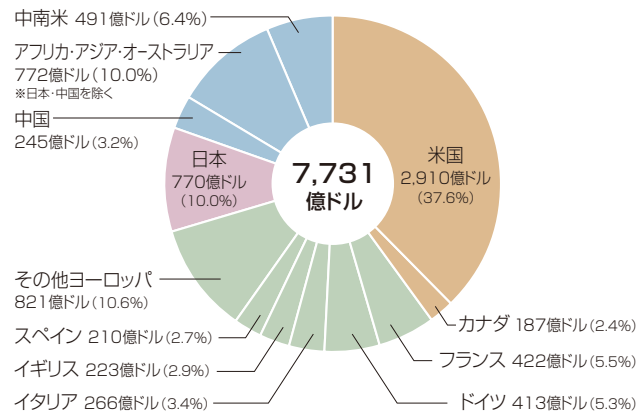
業界動向

世界の経済環境の悪化は、医薬品市場にも深刻な影響を与えています。医薬品情報調査会社IMSは、2009年の世界の医薬品市場価値について恒常ドルベースで2.5～3.5%の成長にとどまると予測しています。世界市場を牽引してきた米国市場の成長率は1～2%減少し、今後5年間の複合年間成長率(CAGR)も横ばいが続くと思われています。日本市場の今後5年間のCAGRは1～4%と予測されており、後発品の使用促進やDPC(急性期入院医療に係る診断群分類別包括評価)の拡大などの医療費抑制策の推進により、低い水準の成長率で推移すると思われる。

このような環境においては、画期的な新薬を生み出し続けることが、研究開発型製薬企業にとっての生命線となります。しかしながら、米国食品医薬品局(FDA)をはじめとする規制当局の新薬に関する承認審査はますます厳格となり、アンメットメディカルニーズ(いまだ有効な治療方法がない医療ニーズ)に対応する医薬品は優先される一方で、先発薬や後発品でニーズの満たされた領域での新薬承認取得は困難になりつつあります。

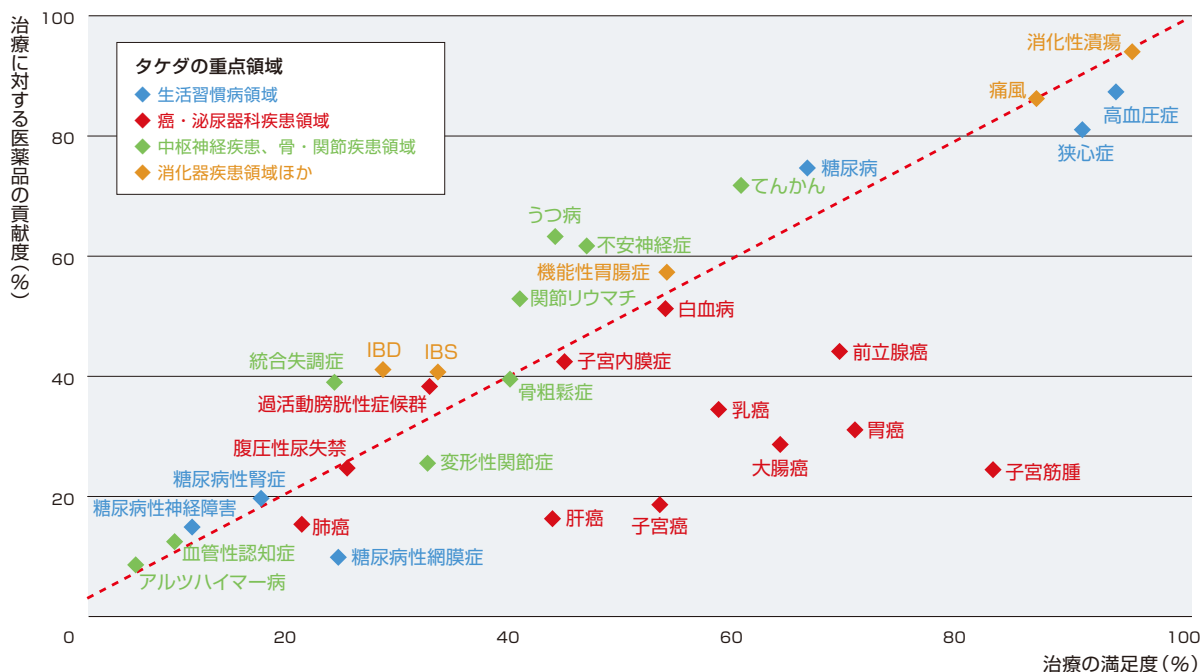
また、既存の創薬基盤技術による新薬創出は限界を迎えつつあり、製薬産業全体として「イノベーションの壁」に直面しています。タケダは、以上のような状況を乗り越え、世界の患者さんが待ち望んでいる新薬を継続的に創出し、「治療満足度の向上」に貢献することが持続的成長の鍵を握る最大の課題と考え、癌領域をはじめとするアンメットメディカルニーズへの対応強化を積極的に進めています。

世界の医薬品市場の売上高(2008年)
資料:IMS World Review 2009 無断複製禁止



「治療満足度」と「医薬品の貢献度」(2005年、対象:医師)

出典:財団法人ヒューマンサイエンス振興財団 平成17年度(2005)国内基盤技術調査報告書より一部改変



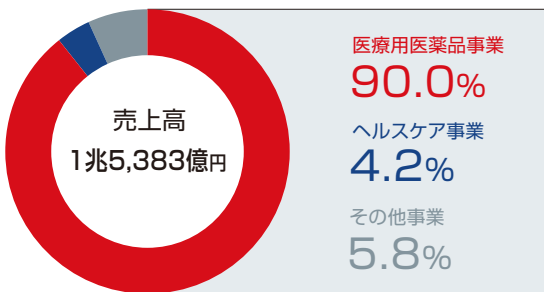
事業概要

タケダグループでは、事業管理の実態を踏まえて事業セグメントを「医薬事業」「その他事業」の2つに分類しています。「医薬事業」は、医療用医薬品事業と、

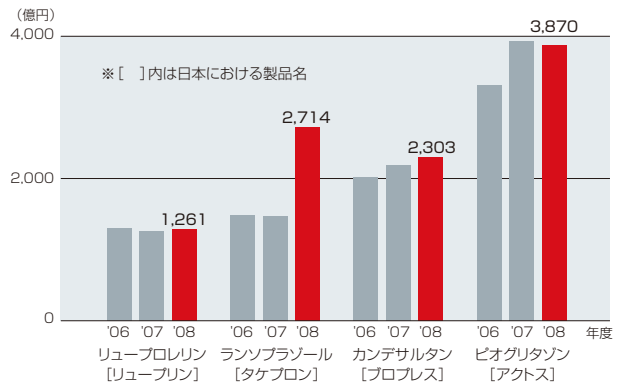
一般用医薬品および医薬部外品の製造・販売を行うヘルスケア事業です。「その他事業」は、試薬、臨床検査薬、化粧品などの製造・販売です。



事業別売上構成比 (2008年度)



国際戦略製品の売上高



地域別売上高 (2008年度)

